

区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	平成24年度	対前年度比	図書館運営全体				
図書館運営	基本的サービス					自己評価		外部評価		
	資料購入費: 決算数値(千円)	15,178	13,684			図書館全体で図書購入費が削減傾向にある中、出版目録、リクエスト、書評、他館の所蔵状況等勘案し、出来るだけ个性的かつ効果的な選書を心がけている。新刊本コーナーの本が土・日で空になるような光景はうれしい。図書館に来ていただき、本に触れていただき、借りて行かれる…。図書館冥利に尽きる。と言っても貸出冊数の拡大についても努力する必要がある、潜在読者層の掘り起こし等工夫の余地はありそうだ。		1 大変評価する 67%	・ネット予約の利便性をもっとアピールしたらいい。 ・あの図書館に行くと読みたい本に出会える…。素敵！	
	蔵書冊数(冊)	182,660	189,296	183,202	3.2%減			2 ある程度評価する 33%	・購入費削減、でも白根図書館の特色は児童書充実。	
	貸出冊数(点)	219,445	216,832	214,072	1.3%減			3 評価できない 0%	・入口等の展示、紹介…。視線がそこに見入ってしまう。 ・巻で借りて、白根で返却できると喜んでる人がいました。	
	登録者数(人)	9,097	9,470	10,191	7.6%増					
(内新規登録者数)	872	811	785	3.2%減						
区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	H24目標値	理由	平成24年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業	課題解決型図書館					自己評価		外部評価		
	レファレンス件数(件)	446	477	500	微増	430	1	レファレンスについて微増傾向にあったので目標も微増させたが、減に転じてしまった。押し売りはできないが、レファレンス環境(掲示・スペース)整備等に努めたい。	1 大変評価する 33%	・情報化時代、ある程度自分で調べられる面もあると思う。
	個人予約件数(件)	14,914	19,652	21,000	増加見込	20,074	2	予約神話も…？ 順調に増加しているが、目標を突破することはなかった。楽観視せず、利便性をもっとPRすべきか。	2 ある程度評価する 67%	・件数よりも職員の力量。十分対応されていますよ。
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	—	—	—					3 評価できない。 0%	・完結明瞭な日本語「調査・相談」等に変更を。PRも。
	ホームページアクセス件数(件)	—	—	—						・予約件数自体意味がない。売れ筋だけの選書は困る。
	分権型図書館					自己評価		外部評価		
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	6,185	6,422	6,450	微増	6,589	3	郷土、行政資料については広く情報を求め、出来る限り入手する努力を行っている。今後、それら新しい資料を含め、利用者の目に止まり易いような工夫も凝らして行きたい。	1 大変評価する 44%	・利用者の目を引く並べ方はとても大事と思う。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	1,200	1,100	1,100	閲覧は確保	1,189	4		2 ある程度評価する 56%	・購入費との兼ね合いか。欲しくても予算がなくては。
	3 評価できない 0%									
	学・社・民融合型図書館					自己評価		外部評価		
	児童書の貸出冊数(冊)	70,948	72,890	73,000	努力して現状	70,131	2	児童書・小中学生への貸出冊数ともに目標値に届かなかった。特に児童書には力を入れて来ただけに、減少はショックである。ブックスタート、学校図書館の充実等の効果はまだ先か？ 職場体験の減少は統計数値の取り方の変更に伴う減で、「ぶれジョブ」等受入依頼については出来る限り対応しており、今後もその方針でいきたい。	1 大変評価する 67%	・子供対象事業は素晴らしい。数値に囚われず継続を。
	小中学生への貸出冊数(冊)	31,800	29,505	30,000	〃	27,788	2		2 ある程度評価する 33%	・特に中学生はスポーツや部活動が優先。気長に待とう！
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	1,206	1,655	1,500	〃	1,614	4		3 評価できない 0%	・国の将来を担う学童向けの活動は地道に、末長く。
	職場体験受入人数(人)	27	43	45	努力	21	1			・児童書・小中学生への貸出減は、学校図書館の充実も。
	講師等としての派遣職員数(人)	87	90	80	職員減	122	4			・減は映像関係、ゲームの氾濫の影響もあるのでは。
	パートナーシップ型図書館					自己評価		外部評価		
	図書館事業のボランティア活動者数(人)	231	207	200	現状維持か	247	4	ボランティア活動者数の増加は、念願だった「図書館まつり」が初開催されたことも増加要因と思われる。ただ、事業、交流会等に参加して下さるボランティアさん方も固定化の傾向にあり、ご負担が増しているようにも見受けられる。新規加入についての有効な手立てが求められる。共催事業の減については定義の統一による変化と思われる。応援団である「友の会」との共催事業である読書会は、25年4月で150回を迎える。	1 大変評価する 78%	・ボランティア団体の継続は難しい。無理しない環境も。
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	6	50	20	地元開催なし	16	1		2 ある程度評価する 22%	・共催事業の読書会はしろねの伝統。末長く継続を。
	共催事業の実施回数(回)	15	95	90	現状維持か	14	2		3 評価できない 0%	・どういったボランティアが出来るのか、PRも必要。
										・ボランティアの方々の努力と、それを支える図書館の成果。
運営(職員)					自己評価		外部評価			
研修参加職員数(人)	19	48	35	職員減	34	3	ほぼ目標値、予想通りの結果か。職員減等で職場に余裕がなくなっており、既に受講した研修等については「職場・仕事優先」という意識が自己防衛的に働いてしまうのでは？(研修に行った分、仕事が残る) 区の独自研修等には転入・新規職員を優先的に送り出している。	1 大変評価する 44%	・職員減の中で、あれもこれもこの状況は如何なものか？	
								2 ある程度評価する 56%	・本来事業より、このような評価等に時間を取られてるのは？	
								3 評価できない 0%	・先進の取組みを積極的に取入れてほしい。限られた人数で大変だろうが、感じよく対応してくれている。利用者にとっては職員のムードがそのまま図書館のムードになると思う。多忙の中でも研修を大切に。	

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成  
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針、組織目標:新潟市が実施している組織ごとの行政評価